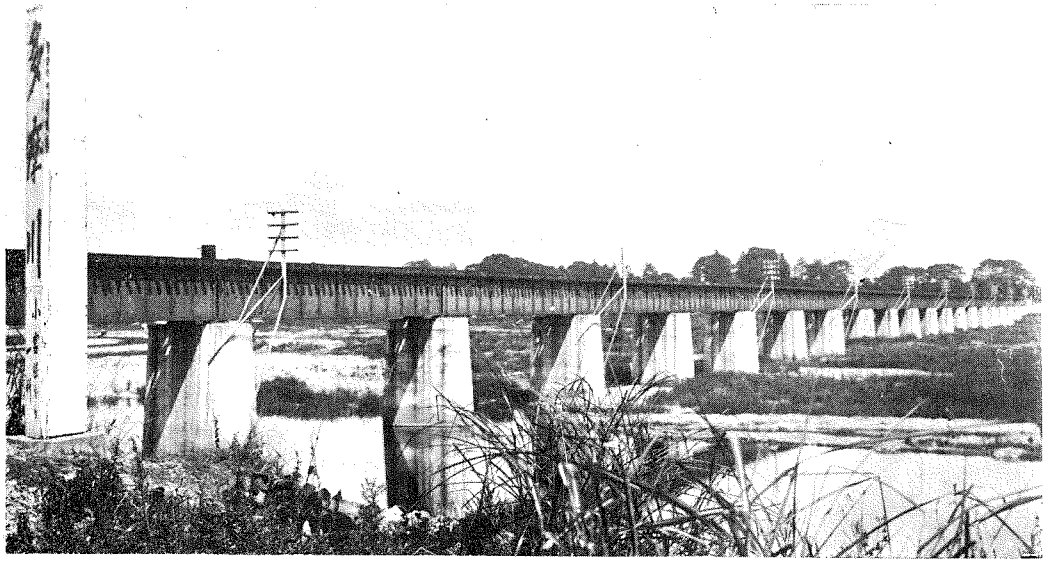


（1）八　高　線　多　摩　川　橋　梁

八高線建設概要

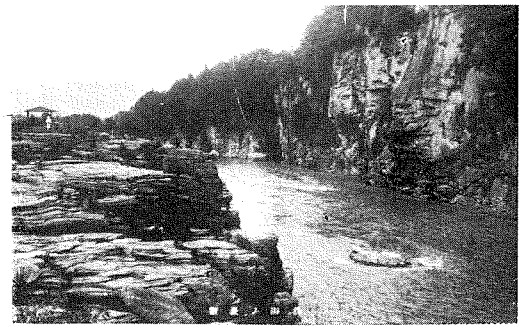
鐵道省東京建設事務所長　長　屋　修

沿　革

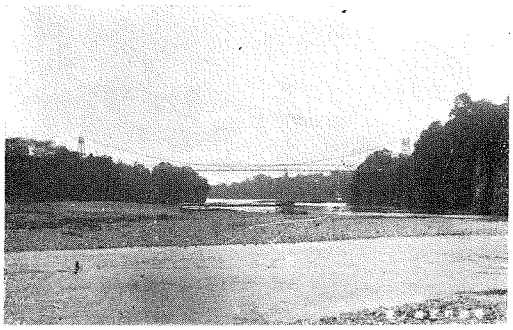
本鐵道は中央線八王子驛より分岐し、埼玉縣飯能町を經て高崎線高崎驛に達するものであつて、其の延長九十六粁に餘り南は横濱線に、北は上越線に接續し、三者相俟つて本州中樞部に於ける一大横斷線を形成し、新潟、群馬、長野地方より直接横濱方面に至る輸送系路を構成して、逐年激增の趨勢に在る現在東京經由の線路による貨物の輻輳緩和に、極めて重要なる役割を爲すものである。

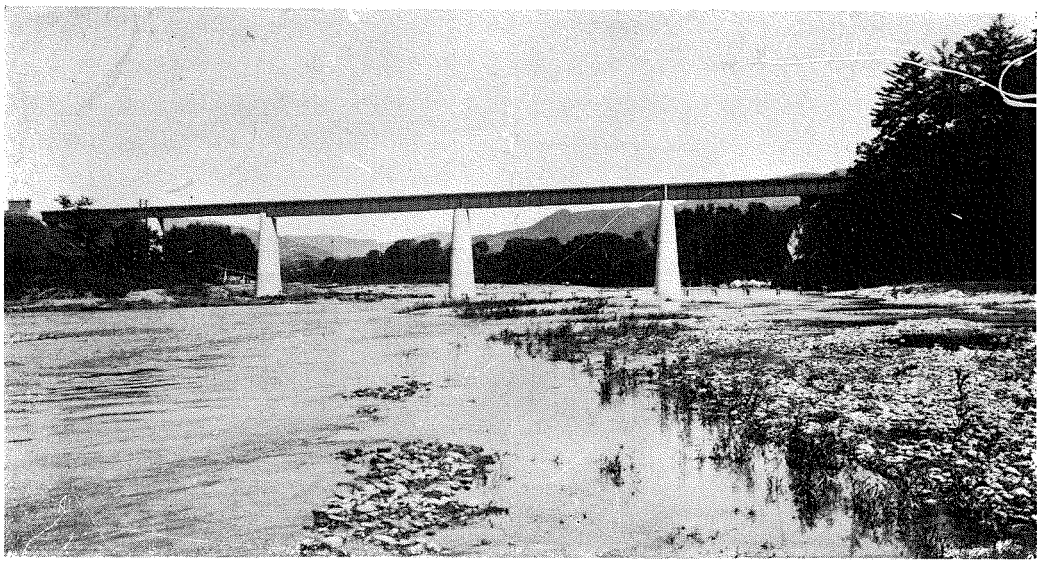
由來本線の經過地たる西部武藏平野は、土地肥沃にして開拓の歷史古く、農林の物資に富み、機業亦旺盛にして其の產額尠からず、

（2）沿線名所・長瀞の清流。



（3）沿線名所・寄居町玉錦の景。





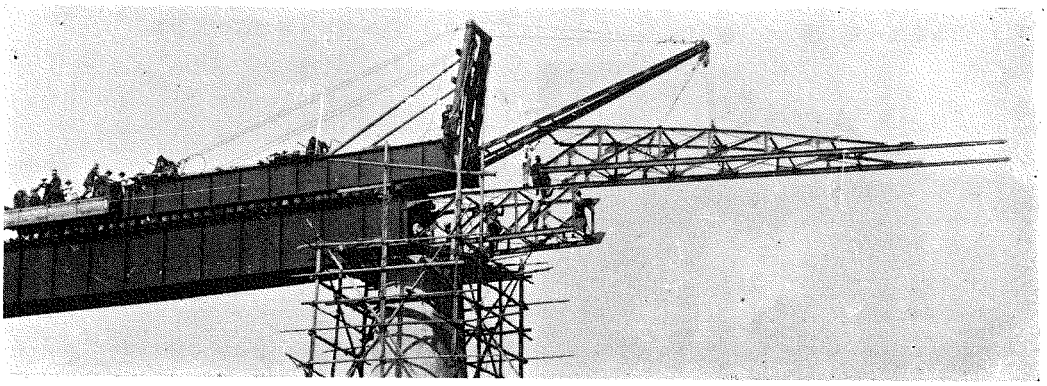
（4）八　高　線　荒　川　橋　梁。

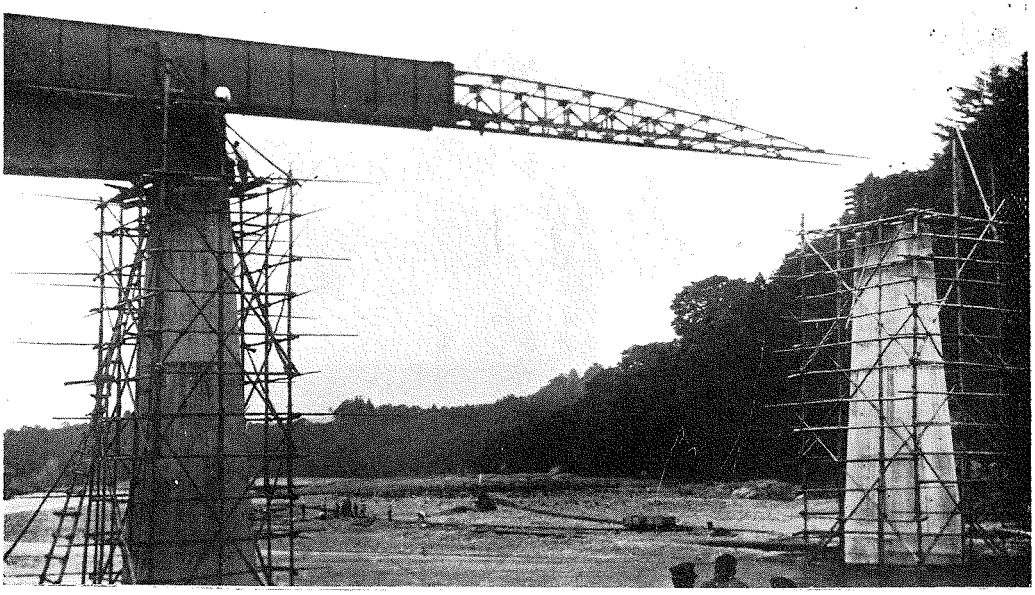
大小の都邑點在し、商估の往來繁きを以て、本鐵道の敷設は之等地方物資の輸送を敏活ならしむると共に、天與の資源豐かなる秩父山麓の大半を其の勢力範圍に抱擁して、將來各種產業の發達助長に貢献する所頗る多かるべく、又鐵道輸送系絡大成上より觀るも必要なりとし、大正十一年第四十五議會の協賛を經て、同年四月法律第三十七號を以て鐵道敷設法豫定線に編入され、次で翌十二年第四十六議會に於て、大正十三年度より昭和八年度に至る十箇年繼續事業として實施確定し、同年四月鐵道省告示第六十一號を以て東京建設事務所々管に編入せられ、其の名稱を「八高線」と定められた。

線路狀勢

本線は八王子市內既設八王子停車場を起點とし、廣漠たる武藏野の平原を北進して、淺川、多摩川の兩川を渡り、拜島村に於て青梅鐵道立に五日市鐵道と連絡し、埼玉縣に入りて入間川を渡り、飯能町に東飯能停車場を設けて武藏野鐵道を連絡せしめ、府縣道飯能小

（5）荒　川　橋　梁　架　設　工　事　其　一。





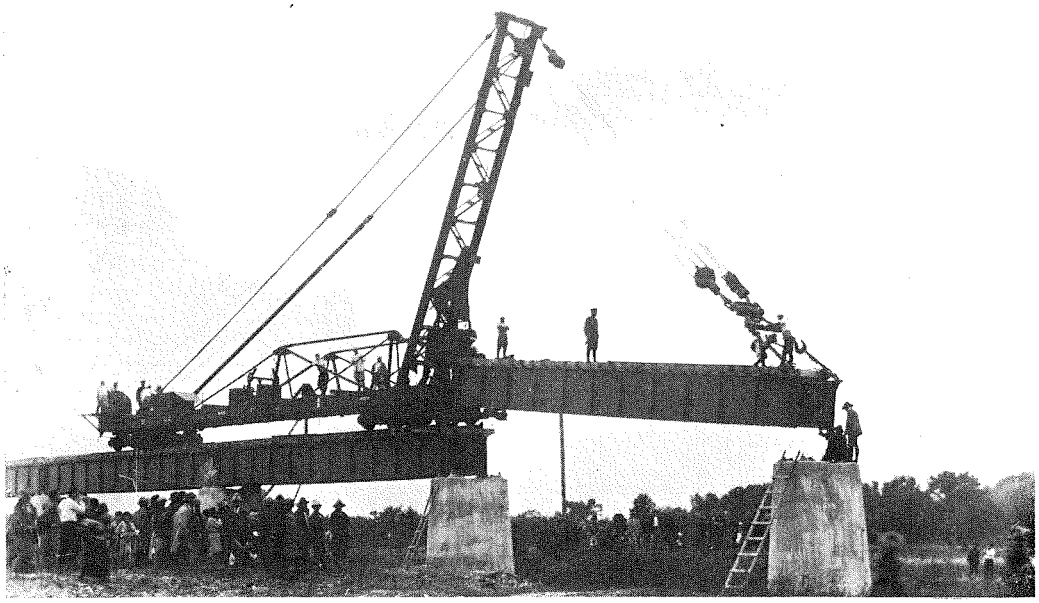
（6）荒　川　橋　梁　架　設　工　事　其　二。

川線に沿ひ北上して高麗川を超え、越生町を經て小川町に至り、東武鐵道東上線小川町驛に連絡、武藏野の漸く秩父の山麓に逼りて緩かに起伏する小丘を縫ひ、寄居町に入り秩父鐵道寄居驛に於て之と連絡し、更に平圃の間を北西に進み兒玉町を過ぎ、神流川を渡つて群馬縣下に延び、藤岡町を經て高崎線新町、倉賀野兩驛間に小野信號場を新設して高崎線に合す。此の間三十八箇町村を連ね、東京を中心として放射する幾多の社線を或は之と連絡し、或は横斷して停車場を設くること十九箇所、之より線路は既設高崎線を利用して高崎市內高崎停車場に達す。其の延長九十六粁四百六十九米九十三糎、線路の最急勾配千分の二十、最少半徑二百五十米である。

工　事　概　況

本線建設工事は、大正十五年四月測量を開始したのに始まり、線路の選定は五區間に分割して順次之を決定し、工事は南北兩方面より進めたのである。卽ち北口小野、小川間の土工其他工事は三工區に劃り昭和三年三月着

（7）入　高　線　寄　居（よりゐ）驛。



（8）八高線身馴川橋梁架設工事。

手、南口は八王子、小川間を四工區に區分して昭和三年十月着工、何れも請負施行に據り其の詳細は次表に示す如くである。

工區一覽表

工區名	延長	竣功請負金額		着手年月日 竣功年月日	請負者
南口第一工區	10粁371	373,740	962	昭和3、10、9 同 6、7、25	前田組合資會社
南口第二工區	15粁 20	517,522	530	昭和4、4、1 同 6、3、29	同上
南口第三工區	14粁413	262,254	774	昭和6、7、10 同 7、10、9	同上
南口第四工區	3粁168	209,236	750	昭和7、4、11 同 8、9、23	同上
北口第三工區	10粁312	228,638	110	昭和7、11、1 同 9、4、15	合資會社西本組
北口第二工區	12粁223	100,22	810	昭和6、5 2 同 7、9、1	同上
北口一工區	12粁821	236,970	525	昭和3、3、20 同 5、3、19	同上

本　　地の大部分は武　野に屬する疎林地帶又、平闊なる田圃の間を縱走する關係上土工數量の大なるものなく、地質赤概ね好條件に惠まれ　多摩川、入間川　荒川、神流川等の長大橋　工事を除けば特に擧ぐべき建造物なく至つて順調に工程を進め、先づ昭和六年七月末　　野、兒　　十二粁餘の運輸營業を開始し、南線に在りては同年十二月八王子東飯能間26粁の開通を見、爾來數次の區間開通によつて南北兩端は愈々接近し、今次最終區間たる小川町、寄居間の竣成を以て茲に本線の全通を告ぐるに至つた次第である。測量着手以來年を閲すること九年、之に要したる總費額は概算六百四十八萬四千四百餘圓、一粁當りの建設費は六萬七千餘圓に當る。